

黒毛和種去勢牛の育成期における粗飼料給与水準が肥育成績に及ぼす影響

黒毛和種の飼育管理においては、一般的に繁殖（子牛育成）経営と肥育経営が分離しておりそれぞれの利益を目的に飼養管理するため、特に子牛の育成期での濃厚飼料多給は肥育期での食い詰まりや枝肉の皮下脂肪厚等との関連が指摘されている。

そこで、黒毛和種去勢牛の育成後期の粗飼料給与水準が肥育成績に及ぼす影響について検討したので紹介する。

【成果の内容】

育成後期に粗飼料の給与量を少なくすると、育成期～肥育中期の増体は向上するが肥育後期の増体が低下し、ロース芯周囲筋間脂肪が厚くなる。逆に粗飼料の給与量を多くすると、肥育中期までの増体は少ないものの肥育後期の増体量低下は少ない。

黒毛和種去勢肥育牛の産肉性向上のためには、素牛の育成後期の粗飼料からの TDN 摂取割合は 40 % 程度が適しており、県の「子牛飼養管理マニュアル」(育成後期の粗飼料からの TDN 摂取割合 40 ~ 46 %) に沿った飼料給与を行うことが望ましい。

表1 体重及びDGの推移(開始6月齢、終了26月齢)

項目	粗飼料からのTDN摂取割合		
	高	中	低
頭数	6	6	6
育成開始体重(kg)	205.3	201.0	208.5
育成期DG(kg)	0.94	0.90	1.01
肥育前期DG(kg)	0.96	0.96	1.02
肥育中期DG(kg)	0.89	0.88	0.95
肥育後期DG(kg)	0.69	0.66	0.60
肥育終了体重(kg)	726.2	718.2	746.2

表2 枝肉性状

項目	粗飼料からのTDN摂取割合		
	高	中	低
頭数	6	6	6
枝肉重量(kg)	461.1	460.6	473.5
ロース芯面積(cm ²)	55.2	51.7	55.3
バラ厚(cm)	8.0	7.8	8.5
皮下脂肪厚(cm)	3.3	4.0	3.2
BMS.No	5.0	4.2	5.2
BCS.No	3.5	3.8	3.7

写真1 試験区別の枝肉写真



高粗飼料区

中粗飼料区

低粗飼料区

【成果の活用面と留意点】

肥育期の血中ビタミンA濃度は低下傾向で推移するため、欠乏症に注意すること。